

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第69号

令和8年
8月発行

発行者
広尾町中高一貫教育推進委員会

北海道広尾高等学校長 田村 郁夫

今年度も広尾町中高一貫教育連絡協議会会長を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。本協議会では、5月の中高合同部会をはじめ、事務局会議（年間7回）、推進委員会（年間3回）、連絡協議会（年間2回）等をとおして、中学校と高校との連携を深めながら、広尾町ならではの中高一貫教育を推進しております。また、中高合同清掃や生徒会交流、SCC（中高一貫相互乗り入れ授業）、中高一貫語り場、中高一貫進路講話、総合的な探究の時間発表会など、多様な活動を実施し、生徒同士、そして教職員同士が互いに学び合う機会を大切にしています。加えて、英語検定や漢字検定の合同実施、オープンクラスウィークや研修会などを通して、教育活動の連続性とつながりを意識した取組を進めています。



「広尾町連携型中高一貫教育」は、平成18年度にスタートし、今年で21年目を迎えました。「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」という理念のもと、多くの町民の皆様や関係機関、教職員のご理解とご協力をいただきながら歩みを重ねてきました。この理念に基づき、中高一貫教育の柱として「基礎・基本の確実な定着」を重視し、これまで積み上げてきた実践を大切にしながら、今後も小学校や地域との連携を深め、より実効性のある中高一貫教育を進めてまいります。

今年度の広尾中学校の重点教育目標は、「自立に向けて前向きに！～自分で みんなで つながって～」、広尾高校の重点教育目標は、「セルフプロデュース力を身に付ける」です。中学校で培う「自ら考え、仲間とつながりながら主体的に行動する力」は、高校における「自分自身を理解し、自らの進路や生き方を切り拓いていく力」へとつながっています。中高6年間を見通した学びの中で、生徒一人一人が自己理解を深め、挑戦する姿勢を育みながら、自立した社会人へと成長していくことを願っています。

中高一貫教育の様々な取組を通して、広尾の子どもたちが地域への愛着を育み、自らの可能性に挑戦しながら進路実現を果たし、将来の地域の担い手として成長していくことを心から願っています。高校としても、小規模校ならではの強みを活かし、一人一人に寄り添ったきめ細かな指導をさらに充実させるとともに、地域理解や探究的な学びを深めてまいります。これからも、中学生や保護者の皆様に「広尾高校で学びたい、学ばせたい」と感じていただける学校づくりを進め、中学校との信頼関係を基盤とした教育活動を推進してまいります。広尾町の皆様には引き続き、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告

5月8日（金）に広尾高等学校多目的教室において、広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

（１）会議の経過

開会挨拶として広尾町中高一貫推進委員会委員長の田村郁夫広尾高等学校長、山岸直宏教育長にお話を頂いた後、中高一貫教育の目指す方向性などについて全体会議で確認をしました。



（２）中高教科部会のようすと実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、情報・商業科、養護の９部会に分かれて開かれました。

①『国語科部会』

- 1 生徒が自分の考えを論理的に伝えるようになるための言語活動の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方



②『社会科【地歴・公民】』

- 1 中高6年間を見通しての学びの手順の確立を目指す。
- 2 それぞれの指導力向上を目指した、各校での授業実践に対しての交流。

③『数学部会』

基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した数学的活動の工夫およびチーム・ティーチングの充実



④『理科部会』

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間を見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

⑤『英語部会』

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できる CAN-DO-LIST と ClassroomEnglish の効果的な運用



⑥『保健体育部会』

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさを深く味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲や態度を育てる。

⑦『家庭科部会』

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるＴＴの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実



⑧『情報・商業科部会』

近年の高度情報化により、ICT 教育を進めるべく、6年間を通して系統的な学習内容により、基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践

⑨『養護部会』

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・カウンセリングの充実

(3) 各分掌部会のようすと実践テーマ

①『教育課程・学習指導部会』

主体的・対話的で深い学びを実践し、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を育む授業を目指す

～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

～個に応じた、わかる・できる授業

②『特別活動・生徒指導部会』

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、共同性を学ぶ
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践を行う

③『進路指導・総学部会』

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長

④『広報啓発部会』

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

⑤『特別支援部会』

- 1 中高の連携・協力した指導・支援方法・支援計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

自分の将来や未来を見通し、 夢や希望を持つことのできる生徒の育成

広尾町立広尾中学校 校長 渡辺 弘司

今年度4月に赴任させていただきました、校長の渡辺でございます。
地域のみなさまには、日ごろから本校生徒や教職員が大変お世話になっておりますことに心より感謝申し上げます。

本町の「中高一貫教育」の推進にあたり、昨年度までのさまざまな取組を拝見し、「地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる」という理念に大変感銘を受けるとともに、これまで諸先輩のみなさまによる多々の協議を経て、発展・進化されてきた本協議会事業について改めて敬意を表します。私自身、その意思や願いをしっかりと受け継ぎ、次世代を担う子供たちの育成に貢献できるよう全力を尽くす覚悟とその責任の重さを改めて実感しているところです。



言うまでもなく、この取組の目的は中・高の一貫性のみならず、保・小からの一貫した学びの連続を活用し、「地域に根差した教育活動の実践により、広尾町の未来の担い手になるべき人材を育成すること」であると思います。本協議会が計画する取組は、すべてこの目的の達成のためにあるということを、生徒はもちろん、教職員全員が再確認しなければなりません。保育所からの学びの連続13年間の営みの中で、子どもたちは広尾町の特色を知り、強みや弱みを発見し、どうすることで強みをさらに拡充し、弱みを縮減できるかを考えることが重要です。そしてよりよい広尾町を創るには何が必要かを協議し、どうやって効果的にその成果を発信するかを自主的に考え、自走できる学びが理想であると思います。我々は一貫教育の有利性を活用し、その学びを支え、一丸となってその教育環境を整えていかなければなりません。生徒間や教師間の交流をはじめ、合同で行う行事や後輩に向けてのアドバイス、講話などの機会を活用し、地元の先輩から学ぶ機会を大切にしていきます。

今年度の本校の重点目標は「自立に向けて前向きに！～自分で みんなで つながって～」と掲げております。この目標は一貫教育の更なる推進につながる第一歩であると確信しています。

また、今年度より広尾町では広尾高校の教育活動や地域との連携活動を支援いただくサポーター制度「広尾高校パートナーズ」が創設されました。中学校としましても、今まで以上に高校や小学校との連携を深め、地域のみなさまに地域連携の取組を支援していただくことで「自分の将来や未来を見通し、夢や希望を持つことのできる生徒」を育成できるものと考えております。

今後とも町民のみなさまのご理解とご協力を仰ぎ、高校との充実した連携の下、ふるさと広尾に育ち、広尾を愛し、地域とともに支え合う生徒を育成していきます。

高校の取組みにつきましては、本紙のほかに、下記ホームページでもご紹介しております。
広尾町のページでは、本紙のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご訪問ください。



広尾高等学校公式 HP



広尾町公式 HP